

第2回8月 東大本番レベル模試 (2022年8月28日実施)

【1】-A (10点満点)

【例1】

何を詰め込むべきかという教育論争は的外れだ。真の教育とは、理性や人としての内なる知識、根拠ある結論に達する能力といった、各人の中に潜むものを引き出すことである。(80字)

【例2】

教育の目的は情報の注入ではなく、多くの教育論争は的外れだ。人には道理、あるべき姿の知識、証拠から結論を導く力などが潜在しており、それを引き出すのが教師の仕事だ。(80字)

| | |
|---------------|---|
| 必須項目 (10点) | <p>①「本当の教育とは、人に情報を詰め込むことではなく、その人から知っていることを引き出すことであり、心の中にあるものを引き出すことである」 But genuine education, ..., is not inserting the stuffing of information into a person, but rather bringing out knowledge from them; it is the drawing out of what is in the mind.</p> <p>▶「教育」(education)がないものは2点減点。 ×「エデュケーション/指導/学び」は「教育」と認めない。</p> <p>▶「詰め込むことではない」(not inserting the stuffing)に相当するものがないものは2点減点。 ×notに相当するものがないものは「詰め込むことではない」と認めない。 ○「詰める/腸詰めにする」は「詰め込む」と認める。 ○「情報の注入」(例2)も「詰め込む」と認める。 ○「教え込む」は許容。×「教える」は不可。</p> <p>②「教育の内容についての議論や論争は的外れなものが多い」 So many of the discussions and controversies about the content of education are pointless and inconclusive ...</p> <p>▶「教育についての議論や論争は的外れ」に相当するものがないものは2点減点。 ×「議論/論争」に相当するものがないものは不可。 ○「要領を得ない/要点を外した/不毛な/無意味な/結論が出ない」は「的外れ」と認める。</p> <p>③「教育はすべての人間の中に隠されているものを生徒から引き出さなければならない」 Education, ..., must draw from the pupil what is hidden in every human being ...</p> <p>▶「隠されているもの」(what is hidden)に相当するものがないものは2点減点。 ○「心の中にあるもの」(what is in the mind)は「隠されているもの」と認める。 ○「潜在するもの」は「隠されているもの」と認める。 ○「内在する(豊かな)もの」(the riches within)は「隠されているもの」と認める。</p> <p>▶「引き出す/取り出す」(draw)に相当するものがないものは2点減点。 ○「明らかにする/表に出す/開放する」(open/reveal)は「引き出す」と認める。 ×「描く/引っぱる」は「引き出す」と認めない。 ×「オープンにする」は「引き出す」と認めない。</p> |
|---------------|---|

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は1箇所につき2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【2】－A (12点満点)

【例1】

The statement “Time is given to all equally” has an important lesson. What it really means is that everyone has the same 24 hours a day, but, if not used wisely by the individual, they will be wasted. We may feel some days are fulfilling, while others just pass by. Time is a fair resource we can get for free, but we cannot store it. Therefore, we should make the best use of our time each day. (77 語)

(「時間はすべての人に平等に与えられている」という意見には、大切な教訓がある。その真意は、誰にでも1日に同じ24時間があるが、各人が賢く使わなければ無駄になるということだ。私たちは、充実した日々もあれば、ただ過ぎていく日々もあると感じることがあるだろう。時間は無料で手に入る公平な資源だが、ためておくことはできない。だから、私たちは日々、時間を最大限有効に使わなければならない)

【例2】

Time is not always given equally to all. One example is children in poorer regions of the world who don't have time to go to school because they have to work. Also, in developed countries, some young people are caregivers and must devote much of their time to their families. This has become a social problem. It is unfair that the time at one's disposal is limited regardless of one's efforts, and society must work to correct this situation. (79 語)

(時間は必ずしもすべての人に平等に与えられていない。1つの例は、働かなければならないので学校に行く時間がない世界の貧困地域の子供たちである。また先進国でも、介護をする若者もおり、家族のために多くの時間を割かねばならない。これは社会問題になっている。自由に使える時間が、本人の努力とは無関係に制限されるのは不公平であり、社会はこの状況を是正するために努力しなければならない)

【例3】

Although time appears to be given equally to everyone, in reality there is a hierarchy based on economic power. For example, if you're wealthy, you can hire someone to do things for you. In a sense, this means that you can buy time with money. In a modern society with an advanced division of labor, such selling and buying of time is essential for our mutual benefit. However, people with economic power are in an advantageous position. (77 語)

(時間は誰にでも平等に与えられているように見えるが、実際には経済力に基づくヒエラルキーが存在する。例えば、裕福な人であれば、人を雇って自分の代わりに何かをやってもらうことが可能だ。ある意味で、これは時間をお金で買えるということだ。分業が進んだ現代社会では、こうした時間の売り買いは相互利益のために必要不可欠である。しかし、経済力のある人が有利な立場にあるのだ)

1. 文法・語法・綴りの誤りは1箇所につき2点減点。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限(60~80語)を満たさないものは0点。
3. 内容面で下記に該当するものは、それぞれ該当の点数を減点。

ポイント1 「時間はすべての人に平等に与えられている」

- * 「時間はすべての人に平等に与えられている」に無関係なもの、言及のないものは12点減点。
- * 「平等」に言及がないものは6点減点。

ポイント2 (「時間はすべての人に平等に与えられている」について) どう考えるか

- * 「『時間はすべての人に平等に与えられている』についてどう考えるか」の答えになっていないものは6点減点。
(「時間はすべての人に平等に与えられている」をただ説明しているだけで自分の考えがないものなど)
- * 「時間はすべての人に平等に与えられている」に肯定的な考えでも否定的な考えでもどちらでもよい。

ポイント3 理由

- * (「時間はすべての人に平等に与えられている」についてどう考えるかの) 理由がないものは6点減点。
- * 「時間はすべての人に平等に与えられている」に触れているものは理由として広く認める。
- * 論旨が一貫していない・論旨に無理があると採点者が判断できるものは4点減点。
- * 宗教・政治信条に関わる記述は、内容が間違っていないでも社会通念に反するものであっても減点しない。

【2】－B (12点満点)

【例1】

The fact that humans are independent beings and not plants that are unable to move from where they took root, shows us that we are also capable of taking action against our environment.

(人間は自立した存在であり、根を張ったところから動けない植物ではないという事実は、私たちが自分の環境に対して行動を起こせることも示している)

【例2】

Unlike plants, which cannot move from where they have grown, we humans have the ability to move independently. This fact means that we can try to improve our surroundings for ourselves.

(育った場所から移動できない植物とは異なり、私たち人間は自立して移動する能力を持っている。この事実は、私たちが自分の環境を自分で改善しようとすることができるということを意味している)

【例3】

The fact that humans are not plants, which must remain in the place where they sprouted, and that humans have the power to move freely, suggests that they can work on changing their circumstances by themselves.

(人間は発芽した場所にとどまらなければならない植物ではないし、また自由に移動する力を持っているという事実は、人間が自分で境遇を変えることに取り組むことができるということを示唆している)

1. 文法・語法・構文・綴りの誤り、不適切な訳語…すべて1箇所につき**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 以下の①～⑥の区分に指定の得点を配分。

【問題】

人間が、生えたところから動き得ない植物ではなくて、自主の力をもった人間であるという事実は、その境遇に対しても、自分から働きかけることも出来ることを示している。

① (2点) 「人間が～ではなくて… (人間) である」

* (×) we だけで「人間」(human beings / humans / Homo sapience など) の明示がないものは不可 (－2点)。

* (×) people / person(s) は「人間」と認めない (－2点)。

* (×) human (可算名詞) の無冠詞・単数形は不可 (－2点)。

② (2点) 「生えたところから動き得ない植物」

* (×) where they are だけでは「生えたところ」と認めない (－2点)。

* (×) 「生えた」に「過去進行形」は不可 (－2点)。(過去／現在／現在進行形／現在完了など可)

③ (2点) 「自主の力をもった」

* (×) his/her (own) power/ability/capacity (自分の力) だけでは「自主の力」と認めない (－2点)。

④ (2点) 「～という事実は…ことを示している」

⑤ (2点) 「その境遇に対しても」

⑥ (2点) 「自分から働きかけることも出来る」

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

A big machine can do more work than a small one, up to a point, beyond which things like weight and friction begin to ruin its efficiency.

<例 1>

大きな機械は小さなものより、あるところまではより多くの仕事をできるが、それを超えると、重量や摩擦などといったことによって、性能は損なわれ始める。

<例 2>

大きな機械は、ある時点までは小さな機械よりも多くの仕事をこなせるが、そこを超えると重量や摩擦といった問題のために効率が悪くなっていく。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|--|----|---|
| A big machine can do more work than a small one, 大きな機械は小さな機械よりも多くの仕事を行うことができる | 2点 | ○A の訳はなくてもよい。 ×machine に「マシーン」は不可。 ×more（多く）の訳抜けは不可。 ×work が do の目的語だとわかっていないものは不可。 ○work は「仕事／作業／働き」など可。 ○do more work に「より多く働く [作業する]」も認める。 ○one の訳は「もの」も可。 |
| up to a point, ある点まで | | ×up to が前置詞句だとわかっていないものは不可。 ○a の訳は「ある／ひとつの／一定の」など広く認める。 ○point は「(時) 点／ところ／レベル／水準／程度／大きさ」など可。「ポイント」も減点しない。 |
| ~, beyond which ... ～が、それを超えると… | 2点 | ×which が a point を先行詞とする目的格関係代名詞だとわかっていないものは不可。 ○継続用法で訳していないもの（限定用法の訳し上げ）は不可とする。 |
| things like weight and friction begin to ruin its efficiency 重量や摩擦のようなものがその効率を下げ始める | | ×things(S) begin(V)のSV 関係がわかっていないものは不可。 ○「Sによって効率が下がり始める」のような訳も可。 ×like が前置詞だとわかっていないものは不可。 ○like ～に「～など」は可。 ×and が weight と friction を結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。 ×begin の訳抜けは不可。 ○ruin の訳は「下げる／低下させる／落とす／損なう／悪くする／だめにする／妨げる」など可。 ○its の訳抜けは減点しない。 ×its を a big machine 以外ととっているものは不可。 ○efficiency に「効果／性能」は減点しない。 |

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B (イ) (4点満点)

<問題>下線部(イ)で「例えが不適切だ」という理由を40字程度の日本語で説明せよ。

This analogy is misguided.

<例1>

自然界には多様な生存戦略があり、生物の進化に例えて大きな経済が勝つとは言えない。(40字)

<例2>

捕食や繁殖における動植物の競争を見れば、大きいものだけが勝ち残るわけではないから。(41字)

- ① 30字以下または50字を超えるものは0点。
- ② 下の(1)(2)が必須項目。
- ③ 必須項目を含んでいても、論旨に反する誤解はその項目の減点(各-2点)

(1) 「(動植物 [生物/自然界] の) (生存) 競争/生存戦略」に相当するもの(これがないものは**2点減点**)

- × 「(生存) 競争/生存戦略」に相当するものがないものは不可(-2点)。
- 「捕食や繁殖における競争」は可。(例2)
- 「競争」があれば、「生存」「繁殖」「捕食」などの修飾語は不問とする。

(2) 「大きいものだけが勝つ [生き残る] わけではない/大きくなること以外にも勝つ [生き残る] 方法は(無限に) ある」に相当するもの(これがないものは**2点減点**)

- × 「大きいもの/大きくなること」に相当するものがないものは不可(-2点)。
- 「大きな経済が勝つとは言えない」も可。(例1)
- 「小さいものが勝つこともある」も減点しない。

【4】－B（ウ）（4点満点）

<問題部分>

An organism that settles on a single survival strategy and ceases to seek and find others is at high risk.

<例 1>

1 つの生存戦略だけで満足して、他の戦略を探し出そうとすることをやめた有機体は、非常に危険な状態に陥る。

<例 2>

1 つの生存戦略に固執し、他の生存戦略を模索して手に入れることをやめる生物は、高いリスクを抱えることになる。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|---|----|---|
| An organism (that ~) is at high risk (~の) 有機体は大変危険である | 2点 | ○An の訳はなくてもよい。 ○organism は「有機体/生命/生き物/組織 (体)」など可。 ×organism に「オーガニズム」は不可。 ×An organism(S) is(V)の SV 関係がわかっていないものは不可。 ○at high risk の訳は「危険にさらされている/危機に瀕している」でもよい。 ○risk の訳は「リスク (が大きい/高い)」も減点しない。 ×high risk に「ハイリスク」は不可。 |
| that settles on a single survival strategy [A] 一つの生存戦略に固執して | 1点 | ×that が主格の関係代名詞で、that [A] and [B] 全体が organism を修飾する関係代名詞節であることがだとわかっていないものは、次の区分とあわせて-2点。 ○settles は「落ち着く/定着する/はまる/満足する/安住する/頼る/決める/ (戦略を) とる」も減点しない。 ×settles on に「続ける/進む/住む/住みつく」は不可。 ×single 「1 つの, 唯一の, 単独の」の訳抜けは不可。 ×single (a の強意) に「独り (身) の」は不可。 ×survival に「サバイバル」は不可。 ○strategy に「方針/戦術/作戦」は減点しない。 |
| and ceases to seek and find others [B] 他 (の戦略) を探し求めるのをやめる | 1点 | ○ceases to ~に「~しない」は可。 ×ceases to ~に「止まって~する」は不可。 ×seek が others を目的語とする他動詞だとわかっていないものは不可。 ×and が seek と find を結ぶ接続詞だとわかっていないものは不可。 ○seek と find をまとめて「探し求める」としたのも可。 ×others が other strategies だとわかっていないものは不可。 |

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(A) (4点満点)

<問題>

下線部 (A) を, they と the great magicians が何を指しているかを明らかにして和訳せよ。

Clumsy learner's spells, they seemed, when set beside those of the great magicians.

<例1>

魔法のような古典作品を書いた欧米の文豪たちと比べれば, 私の書いたものなどは不器用な修行者の呪文に思えた。

<例2>

欧米古典文学の偉大な作家の傑作と並べると, 自分の書いた物語や詩は下手くそな見習いの言葉にしか見えなかった。

| 区分 | 配点 | 具体事例 |
|---|----|---|
| <p>Clumsy learner's spells, they seemed, 私が書いたものは下手な見習いの呪文に見えた</p> <p>(they が指すものを明らかにする指示あり)</p> | 2点 | <p>×They(S) seemed(V) clumsy learner's spells(C)の倒置だとわかっていないものは不可。</p> <p>○clumsy は「不器用な/下手な/ぎこちない/だめな」など可。</p> <p>×clumsy に「つまらない/退屈な」は不可。</p> <p>○learner は「見習い/初心者/未熟者」など可。</p> <p>○learner に「学習者/学生」も認める。</p> <p>○spells は「呪文/言葉」など可。</p> <p>○spells に「文章/書き散らし/作品」も認める。</p> <p>×spells に「スペル」は不可。</p> <p>×they が my stories and poems (私が書いた物語や詩) だとわかっていないものは不可。</p> <p>×they に「それら」は不可。</p> <p>○seemed は「思われた/見えた/～のようだった」など可。</p> <p>×seemed を現在時制で訳しているものは不可。</p> |
| <p>when set beside those of the great magicians. 欧米の古典 [一流] 文学の偉大な作家が書いたものに比べると</p> <p>(the great magicians が指すものを明らかにする指示あり)</p> | 2点 | <p>○when は「～時/～場合/～と」など可。</p> <p>○when に「～ならば」も認める。</p> <p>×when と set の間に they were の省略があることがわかっていないものは不可。</p> <p>○set beside は「比べる/並べる/横に置く」など可。</p> <p>○those は「呪文/書いたもの/作品/物語や詩」など可。「～のもの」も認める。</p> <p>×those の訳抜けは不可。</p> <p>×the great magicians が classic European and American literature の著者たちのことだとわかっていないものは不可。</p> <p>○European and American への言及の有無は不問。</p> <p>×classic に言及がないものは不可。</p> <p>○classic は「古典の/一流の [有名な]」など可。</p> <p>×classic に「クラシック」は不可。</p> <p>×the great magicians に直訳の「偉大な魔術師たち」は不可。</p> |

- ① 上記の区分に分けて配点。区分内に1か所でも誤りや訳漏れがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳, 訳漏れ, 英語のまま, 不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【5】－(C) (4点満点)

<問題>

下線部 (C) はどのようなことを言っているか、具体的に説明せよ。

I would have

<例1>

心に浮かんだ言葉を、後で文章に使えるよう、その場で紙に書き留めたりしたこと。

<例2>

作品を書くために、思いついた言葉を何かにメモしておこうとしたこと。

- ① 字数制限なし。
- ② 下の (1) (2) が必須項目。
- ③ 必須項目を含んでいても、論旨に反する誤解はその項目の減点 (各－2点)。

(1) 「後で使う／作品の材料にする (ために)」に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

○ 「作品 [物語／詩／小説] を書く」は「後で使う」と認める。

(2) 「(以前なら) 思いついた言葉 [こと] を書き留めた (だろう)」に相当するもの (これがないものは**2点減点**)

× 「思いついた言葉／心 [頭] に浮かんだ言葉」に相当するものがないものは不可。

○ the words (言葉) は「語／単語／語句／こと」など広く認める。

× 「書き留めた／メモした」に相当するものがないものは不可。

× 「書き留めること」のように would have の時制を考慮していないものは不可。